

(3) チェコ併合とスロバキアの保護国化

686 昭和14年3月11日
在チエコスロバキア藤井公使より
有田外務大臣宛(電報)

スロバキアにおける親独傾向と独立気運の高揚について

ブラハ 3月11日前発
本省 3月11日前着

第九號

「⁽¹⁾ミュンヘン」會議以後「スロバキア」及「カルパトルシア」ハ廣汎ナル自治ヲ供與セラレ當國ハ一種ノ聯邦組織ニ變形シ目下右前提ノ下ニ新憲法ノ草案作成中ナル處其ノ後ト雖聯邦相互間ノ關係良好ナラス當國ハ外交又ハ經濟問題以外ハ一ニ内部融和問題ニ於テ最大ノ難關ニ逢着シタリ就中「スロバキア」當局ハ自治ノ獲得後逸早ク共產黨彈壓、反猶太政策等ヲ斷行シ事毎ニ中央政府ニ先ンシテ親獨の傾向ヲ露骨ニ表示セルノミナラス領内獨逸人及洪牙利人等ニ對シテハ少數民族ノ權利ヲ寛大ニ供與シツツ「チエツコ」人ニ對シテハ之ヲ拒否シ更ニ最近ニ至リテハ國境ヲ改訂シ

テ「モラヴィア」ノ東南部(製靴會社、「バタ」工場地方ヲ含ム)ヲ「スロバキア」ニ編入スルコト

獨立ノ軍隊保持、大藏、外務等聯邦共通ノ官廳ニ對スル「スロバキア」人ノ比率任用等各種ノ難題ヲ提示シ獨立的機運ノ情勢漸ク表面化スルニ至リタル爲十日遂ニ大統領ハ現「カルパトルシア」政府(六大臣ヨリ成ル)ノ總理「チソ」^(スロバキア)以下四名ヲ免職シ一時残り二名ヲ以テ同政府一切ノ事務ヲ管掌スルコトヲ命シタリ「スロバキア」ハ人口ニ百萬餘、文化ハ「チエツコ」ニ比シ遙ニ低級ニシテ經濟的ニハ農業、林業等ノ外特ニ見ルヘキモノナク「ボヘミア」トノ關係ヲ絶チテ到底獨立シテ立行ク筈ナキノミナラス最近「スロバキア」政府當局頻々柏林ヲ訪問セル等ノ事情アルニ鑑ミ表面獨逸ハ此ノ問題ニ何等介入シ居ル模様ナキモ裏面ニ於テ何等カノ使噓ヲ受ケ居ルモノト想像セラルル前總理「チソ」ハ豫テ「スロバキア」自治運動ノ闘士トシテ同地人民黨々首「フリンカ」(客年七月病死)ヲ輔佐シ遂ニ「ミュンヘン」會議以後自治獲得ニ成功シタル功勞者ニモアリ

同人ノ免職ハ其ノ一派ノ分離運動ニ一層拍車ヲ掛クルコトトナルヘク一方「カルパトルシア」ニ於テモ最近一大臣カ

大「ウクライナ」運動ノ張本者トシテ波蘭ノ抗議ノ下ニ中央政府ニ依リ免職セラレタル事件アリ同地ニ於テモ中央政府ニ對スル反抗氣分激化セル旨ノ情報アリ是等内政ノ錯雜紛亂ニ徴シ「ミュンヘン」會議ノ當國內政ニ及ホス影響漸ク深刻化シタルモノノ如ク假令一時的ニハ中央政府ノ高壓手段成功スルトモ前途到底豫測シ難キモノアリ不取敢在歐大使、羅馬尼、洪、維納へ轉電セリ



687 昭和14年3月11日 在ウイーン山路総領事より
有田外務大臣宛(電報)

スロバキア自治政府が独国の保護下に独立を

計画中との情報報告

ウイーン 3月11日後発

本省 3月12日前着

第一四號

在致公使發貴大臣宛電報第九號ニ關シ

相當確實ナル情報ニ依レハ最近當地致國總領事ハ本國政府ヨリ極秘ノ含ミトシテ「スロヴァキア」政府カ獨逸ノ保護ノ下ニ立ツ獨立國タラントスル趣旨ノ宣言書發表ヲ計畫セ

ル事實等アリテ同地事態カ急迫シ居ル旨ノ通報ニ接シ居タル趣ナリ

獨、致ニ轉電セリ



688 昭和14年3月14日 在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

スロバキアが独立宣言発表について

ベルリン 3月14日後発

本省 3月15日前着

第二二五號(至急、極秘)

往電第二二一號ニ關シ

「ブラーグ」政府ノ「スロバキア」壓迫其ノ後益熾烈トナリ同地方在住ノ獨逸人ニモ波及スルニ至リタル爲十三日夕刻「チソ」總理急遽伯林ニ飛來シ直ニ「ヒ」總統ト會見事態急迫セル實狀ヲ説明シ獨逸ノ支援ヲ求メタル結果「ヒ」ハ例ノ通り電光石火的ニ「スロバキア」支持ノ決意ヲ爲セルヲ以テ「チソ」ノ歸來ヲ待チ本十四日「スロバキア」議會ニ於テ獨立ノ宣言ヲ發表スルニ至リタリ事態斯クナル以上獨逸トシテハ「スロバキア」ノ要求ヲ絶對的ニ支持シ或

ハ場合ニ依リテハ「スロバキア」内獨逸人ノ保護ヲ名目トシテ一部出兵ヲモ辭セサル決意アルモノト認メラレ從テ多少ノ曲折ハアルモ「プラーグ」政府トシテハ「スロバキア」ノ獨立ニ對シ結局泣寢入ヲセサルヲ得サルコトトナルヘシ（今夕「チエツコ」大統領ハ自己ノ發意ニ依リ外相ヲ伴ヒテ來獨スル筈ニテ右ハ獨逸ノ調停ヲ求ムル爲ナランモ獨逸政府トシテハ飽迄「スロバキア」ヲ支持スル趣ナリ）而シテ英佛等ノ態度ニ關シテハ獨逸政府トシテハ消極的態度ニ終始スルモノト確信シ居リ今次事件カ大ナル國際的紛争ニ發展スルカ如キコトナキモノト觀測シ居レリ

689

昭和14年3月15日
在英國重光大使より
有田外務大臣宛（電報）

チエコ情勢險惡化に関する英國紙論說報告

ロンドン 發

本省 3月15日後着

特情倫敦第二六號

十四日ノ英國各紙ハ何レモ「チエツコ」ノ情勢險惡化ヲ報シ種々社説ヲ掲ケテ居ルカ各紙何レモ今回ノ「チエツコ」

國政府ノ窮狀ニ同情シ同政府カ「スロヴァキア」、「ルテナ」等ニ對シ既ニ最大限ノ讓歩ヲ爲シタニモ拘ラス今次ノ難局ニ際會シタノハ偏ニ獨逸ノ尻押ニ依ルモノテ其ノ手口ハ昨秋危機ノ際ノ暴力政策ヲ髣髴タラシメルモノカアリ無法ナ内政干渉ト稱スル外ナイト獨逸ヲ攻撃スルト共ニ他方「ミュンヘン」會議ニ於テ英國ノ保障シタノハ國境問題テアリ「チエツコ」國ノ内部分解ハ保障義務ノ圈外ニ在ル從テ此ノ際英國トシテ中立ヲ保ツコトハ至當テ「チエツコ」國救援ノ爲ニ起ツ必要ハナイトノ趣旨ヲ述ヘ一様ニ獨逸ヲ非難スルト共ニ責任回避ニ努メテ居ル但シ「ヨークシヤ・ポスト」紙ノミハ「チエンバレン」短見外交ヲ攻撃左ノ如ク述ヘテ居ル事茲ニ到ツタノハ「チエンバレン」首相ノ所謂「ミュンヘン」政策カ當初カラ誤ツテ居タ爲テ「チエンバレン」首相カ「チエツコ」問題ハ「ズデーテン」割讓ト言フカ如キ小手術テハ片付カヌコトヲ洞察シ得ナカツタ爲テアル

690

昭和14年3月15日
在ウイーン山路總領事より
有田外務大臣宛（電報）

スロバキア独立は独国政府の国境保障引受け
の下に実施されたとの関係筋の内話情報報告

ウィーン 3月15日前発
本省 3月15日夜着

第一七號(極秘)

往電第一四號ニ關シ

壤太利州長官官房長「ハンメル、シユミツト」(同人ハ「スロウアキア」諸要人ノ當地「ラヂオ」放送ヲ監視シ又「チソ」等ノ「ヒットラー」トノ會見ニモ特別仕立ノ獨逸機ニテ同伴スル等各問題ノ爲最近數日間殆ト安眠スル暇ナカリシ由)及東方部長ノ十四日本官ニ對シテ爲セル内話ヲ綜合スルニ「スロウアキア」ノ獨立宣言ハ獨逸政府ノ同國國境保障引受ノ下ニ行ハレタルモノニシテ其ノ善後措置ニ付テハ獨逸間ニ於テ交渉セラルヘク尙獨逸ハ萬一ノ場合「ブレスラウ」ト當地トノ線(兩地間ハ致獨間ノ取極ニ依リ現在治外法權ヲ有スル列車聯絡アリ又同權ヲ有スル獨逸自動車道路モ敷設セラルル筈)ニ依リ「チエツコ」ヲ中斷センカ爲既ニ數日來致羅南北兩國境方面ニ軍隊ヲ集中シ居タル趣ナルカ當地北方及東方(對洪牙利)國境ニハ今日猶歩兵及砲

兵等ノ集結續々行ハレツツアル模様

「ヒットラー」ハ十五日獨壤合併記念ノ閱兵ノ爲當地來訪ノ筈ナリシカ右閱兵ハ多分取止トナルヘク又伊太利滯在中ノ「ゲーリング」ハ急遽伯林ニ歸還シ他方致國大統領及外相モ伯林ニ赴ケル趣ナリ

獨、致へ轉電セリ



691 昭和14年3月15日

在チェコスロバキア藤井公使より
有田外務大臣宛(電報)

カルパト・ウクライナの獨立宣言發出および

同地方にハンガリー軍侵攻との情報報告

ブラハ 3月15日前発
本省 3月15日夜着

第一六號

十四日「カルパトルシア」ニ於テモ獨立ヲ宣言シタル旨ノ情報アル處一方同地ト洪牙利トノ新國境地方ニ於テ衝突事件アリタルヲ利用シ洪牙利ハ同國境一帶ニ軍隊ヲ進入セシメタル趣ナリ尙同夜十一時「プラーグ」「ラヂオ」放送ハ「オストラバ」ニ於テ反獨的事件アリタル爲獨逸ハ自國人

保護ト稱シ同所及「ミステリ」方面ニ軍隊ヲ進入セシメタル旨報シタリ

前電通り轉電セリ

692 昭和14年3月15日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

チエコスロバキア大統領が同国の運命を独国に委ねる趣旨の協定成立について

ベルリン 3月15日後発

本省 3月16日前着

第二二六號(大至急)

十四日夜來伯セル致國大統領及外相即夜「ヒ」總統「リ」外相トノ會談ノ結果十五日午前三時五十五分左記要旨ノ協定成立シ右四名ニ依リ署名セラレタル旨十五日公表セラレタリ

會見中ヲ通シ今回「チエツコスロヴァキア」國內ニ發生シタル重大事態ニ付徹底的ニ檢討ヲ加ヘタル結果總ユル努力ノ目的ハ中歐ノ此ノ部分ニ於ケル安寧秩序平和ノ維持ニ在ルコトニ双方ノ意見一致シ「チエツコスロヴァキア」大統領

領ハ右目的ニ役立チ且徹底的の平和ヲ達成スル爲「チエツコ」民族及致國ノ運命ヲ信賴ヲ以テ獨逸國總統ノ手中ニ委ヌヘキヲ聲明シ總統ハ此ノ聲明ヲ容レ「チエツコ」民族ヲ獨逸國ノ保護下ニ置キ「チエツコ」民族ノ生活ノ特質ニ相應スル自治的發展ヲ保障スル決意ヲ表明セリ

693 昭和14年3月15日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

独国軍チエコスロバキア進入に際してのヒトラー宣言について

ベルリン 3月15日後発

本省 3月16日前着

第二二八號(至急)

獨逸國防軍ノ致國進入ニ際シ十五日「ヒットラー」總統獨逸國民ニ對スル宣言發表セラレタルカ其ノ要旨左ノ通り
數箇月前獨逸力耐ヘ難キ「チエツコスロバキア」ノ暴力的政治ヨリ獨逸民族ヲ救ヒタル後又復最近ニ至リ同様ノ現象繰返ヘサルルニ至リタリ斯ル壓制ハ多數民族ノ生活スル區域ニ於テハ耐ヘ難キ状態ヲ惹起スルコト必然ナリ自由ト生

活カ魯カサレタル反撃トシテ致國內異民族ハ「プラーグ」ヨリ分離シ茲ニ「チエツコスロバキア」ハ存在セサルニ至リタリ

日曜以來各地ニ紛擾起リ多數獨逸人其ノ犠牲トナリ救ヲ求メ來レリ斯ル狀態ノ繼續ハ獨逸カ致命的利害關係ヲ有シ且數千年來獨逸國家ニ屬シタル地方ノ秩序ヲ害スルモノナリ當區域ニ於ケル平和ノ脅威ヲ徹底的ニ排除シ必要ナル新秩序ヲ建設スル爲余ハ本日國防軍ヲ「ベームン」、「メーレン」地方ニ進入セシムヘク決心セリ我カ國防軍ハ暴動團及之ヲ保護スル「チエツコ」軍隊ノ武裝解除ヲ強行シ脅威ヲ受ケ居ル總テノ者ノ生命ヲ保護シ以テ數千年ノ歴史ト獨逸及「チエツコ」民族ノ要求ニ公正ナル原則的解決ヲ設定スヘキ根底ヲ確保スヘシ

694

昭和14年3月16日

在独国外務大臣宛(電報)
有田外務大臣宛(電報)

チエコスロバキアの國際法上の地位は未決定
であるとの独国外相側近者の内話情報報告

ベルリン 3月16日前発
本省 3月16日後着

第二三一號(至急、極秘)

「⁽¹⁾リ」外相今朝來總統ト共ニ「プラーグ」ニ赴キタル爲同外相側近者ヨリ得タル致國問題ニ關スル情報左ノ通り

「チエツコ」大統領ト「ヒ」總統トノ會見ノ結果「チエツコ」民族ノ運命ハ一切「ヒ」總統ノ手ニ委ネラルルコトトナリタルニ依リ今後同地方ノ安寧、秩序、平和ノ維持ハ獨逸國ニ一任セラレタル次第ナリ獨逸トシテハ「チエツコ」(「ベームン」、「メーレン」地方)ニ對シ同地方ノ平和秩序ノ維持ノ爲如何ナル具体策ヲ講スヘキヤハ目下考究中ナルモ獨逸軍隊ヲ駐在セシメ外交權ヲ獨逸ノ手ニ收ムルコトトナルヘク又財政政策ニモ干與スルニ至ルヘシ而シテ其ノ國際法上ノ地位ハ各種具體的諸問題ニ關スル決定アリタル後ニ定マルヘク從テ「プラーグ」駐在ノ獨逸公使館及第三國公館ニ關シ獨逸トシテ如何ナル態度ヲ執ルヤニ付テハ今ノ處當國政府ノ意嚮決定シ居ラサル趣ナリ

三、⁽²⁾獨逸トシテハ「スロバキア」ノ獨立宣言ハ先ツ「チエツ

コスロバキア」國ヨリノ分離ヲ意味スルモノナリトシ直ニ之ヲ以テ同地方カ完全ナル獨立國家トナリタルトハ見居ラス「チエツコ」ノ場合ト同様同國ノ國際法上ノ地位ニ關シテハ今暫クノ後ニアラサレハ決定スルヲ得サル状態ナリ

三、「カルバート、ウクライナ」ニ關シテハ「チエツコ」及「スロバキア」兩地方共將來完全ニ獨逸ノ勢力範圍下ニ入ル以上「カルバート、ウクライナ」ノ現狀維持ニハ從前程ノ重キヲ置キ居ラサル模様ニシテ洪牙利ノ要求貫徹指導地方領域ノ變更アルヤモ知レサル情勢ナリ
在歐各大使、致、「ブタペスト」へ轉電シ維納へ暗送セリ

695 昭和14年3月16日 在獨國大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

ボヘミアおよびモラヴィアが獨國保護領となつたとのラジオ発表について

ベルリン 3月16日後發
本省 3月17日前着

第二三二號(至急)

本十六日午後一時「ラヂオ」ヲ通シ「ボヘミア」、「モラヴィア」兩地方カ獨逸保護領トナリタル旨發表セラレタリ詳細追電ス
在歐各大使へ轉電セリ

696 昭和14年3月16日 在チエコスロバキア藤井公使より
有田外務大臣宛(電報)

ハンガリー軍のカルバート・ウクライナ侵攻は獨國了解の下に決行されたとの觀測報告

プラハ 3月16日後發
本省 3月17日前着

第二二號

十五日在當地洪牙利公使ニ面談セル處同公使ハ同國軍隊ハ依然「カルバート」進撃ヲ續ケ居ルカ恐ラク同地方ヲ併合スルコトトナルヘキ旨語リタルニ付右ハ豫メ獨逸トノ了解アリタル次第ナリヤト尋ネタル處右了解ナクシテハ斯ノ如キコトヲ決行セサルヘシト想像スト述ヘタリ
在歐洲各大使、羅馬尼、洪、維納へ轉電セリ

~~~~~

697

昭和14年3月16日  
在チエコスロバキア藤井公使より  
有田外務大臣宛(電報)

チエコスロバキア外務省の事実上の消滅に鑑

み公使館を総領事館へ変更方意見具申

ブラハ 3月16日後発  
本省 3月17日前着

(第二三號(至急))

十五日夜大統領及外務大臣伯林ヨリ歸着セルヲ以テ十六日早朝外務大臣ニ面會ヲ求メタル處既ニ外務省ハ存在セザル趣ニテ責任者皆無トナリタルニ徴スルニ客年獨塊合併ノ例ニ依リ當館ハ昨十五日兩元首ノ共同聲明ニ依リ公使館トシテハ自然消滅トナリタルモノト見ルヘク今後ノ外交交渉ハ一切在獨大使館ニ於テ取扱ハルヘキモノナルヘシ尤モ當館ハ將來當地方カ維納ト竝シテ中歐及東歐ニ對スル獨逸ノ政治的及經濟的發展ノ據點トナルヘキ重要性アルニ顧ミ總領事館トシテ存續セシムルヲ必要ナリト思考スルニ付右至急御詮議ノ上御決定次第之亦獨塊合併ノ例ニ倣ヒ右設置方伯林ニ於テ交渉方然ルヘシト存ス

尚本使ニ關シテハ既ニ駐劄國消滅ノ爲公使トシテノ對外的

地位ヲ喪失セル次第ナレハ殘務整理次第成ルヘク速ニ當地ヲ引揚ケタキニ付不取敢至急歸朝命令ヲ發スル様願度シ將來總領事館設置ニ決定ノ場合ニ於テハ本省人事ノ御都合ニ依リテハ木内書記官ヲ暫定的ニ總領事ニ轉官セシメ館務處理ニ當ラシムルコト過渡の措置トシテ好都合ト思考スルモ同官ハ既ニ歸朝命令ニ接セルコトニモアリ出來得レハ成ルヘク早日ニ他ニ適任者(土地柄獨逸系ヲ可トス)ヲ御選任御派遣アル様致度ク前記縷説ノ事情御考察ノ上御詮議ノ結果至急何分ノ御指示仰度シ  
獨へ轉電セリ

698

昭和14年3月17日  
在独国外務大臣宛(電報)

在チエコスロバキア日本公使館の廃止などを  
独国外務当局が要請について

ベルリン 3月17日前発  
本省 3月17日夜着

(第二三七號(至急))

一 致國問題ニ付外務次官補ノ内話左ノ通り

(イ)「チエツコ」ハ獨逸ノ領土トナリタル爲「プラーグ」ニハ各國公使館存在ノ理由消滅シタル次第ナリ右事態ノ變更ニ付テハ明十七日在東京獨逸大使ヨリ正式ニ我政府ニ對シ本日ノ御禮(往電第二三三二號ヲ意味ス)ヲ通告スル筈ニテ右ハ日本竝ニ各國ニ對シ之ヲ行フ筈ナルカ各國共抗議等ノコトナカルヘシト豫想シ居レリ就テハ此ノ事態ヲ確認スル爲友好國カ成ルヘク早く公使館廢止ノ措置ニ出ツルコトハ獨逸ノ最モ歡迎スル所ニシテ日獨關係ニ鑑ミ特ニ日本政府ノ好意アル御考慮ヲ願フ次第ナリ

(ロ)「スロバキア」ノ status ニ付テハ「チソ」ノ總統宛電報ノ次第(往電第二三四號參照)モアリ其ノ國際法上ノ地位ハ未決定ナルモ恐ラク獨立國家トシテノ承認問題ノ如キハ起ルコトナカルヘク實ハ波蘭ノ公使館設置聲明ノ如キハ獨逸トシテハ過早ノ措置ト考ヘ居ル次第ニシテ何レニスルモ斯ル措置ハ「スロバキア」ノ地位確定迄之ヲ見合ハサルル様希望ス

(ハ)「カルパト、ウクライナ」ハ其ノ大部分既ニ洪牙利軍隊ニ依リ占領セラレ居リ且獨逸トシテハ同地ヲ以テ

「ウクライナ」運動ノ據點トスル意思ナク又波蘭、洪牙利カ國境ヲ接スルモ從來第三國ノ新聞カ報スル如ク獨逸ノ東方政策ヲ妨害スルモノトハ考ヘ居ラス

ニ、既ニ洪牙利等ノ如キハ「プラーグ」公使館廢止ノ聲明ヲ爲セル次第ニモアリ我方トシテモ此ノ際速ニ公使館廢止ニ關スル聲明ヲ發セラルルコト然ルヘシト存ス

前記(ハ)ノ事情ニ鑑ミ「カルパト、ウクライナ」ハ洪牙利ニ所屬セラルヘシト豫想セラル

699

昭和14年3月17日 在チエコスロバキア藤井公使より  
有田外務大臣宛(電報)

ハンガリー軍侵攻に対するカルパト・ウクラ  
イナからの調停要請を黙殺について

ブラハ 3月17日後發

本省 3月18日前着

第二六號

十六日「カルパトルシヤ」總理 Voroshilov 本使ニ宛テ前後二通ノ電報ヲ送り洪牙利軍隊ノ「カルパト」侵入ニ關シ洪牙利政府ニ對スル外交的干涉ニ依リ之ヲ抑制センコトヲ懇

願シ來レリ右ハ素ヨリ帝國ノ關與スヘキ事項ニアラサルハ勿論洪牙利ノ同地占領ハ獨逸トノ了解ノ下ニ行ハレタル既成事實ト想像セラルルニ依リ之ニ對シ何等回答ヲ發セス前電通り轉電セリ

700 昭和14年3月17日 在英國重光大使より 有田外務大臣宛(電報)

英國内において独國のチェコスロバキア併合

への非難と政府の対独宥和政策への疑義が高

まっっている旨報告

ロンドン 3月17日後發  
本省 3月18日前着

第二六一號

往電第二四五號ニ關シ

獨逸ノ致國併合ノ報道ハ一般ニ大ナル衝動ヲ與ヘ各紙何レモ所謂「アピースメント」政策ノ效果ナキヲ説クト共ニ「ヒトラー」カ公約ヲ守ルノ信義ヲ有セサルヲ指摘シテ頻リニ獨逸ノ遣口ヲ論難シ在獨大使ノ引揚(多分歸任セサルヘシト傳ヘラル)ニ贊意ヲ表シ獨逸ハ今ヤ獨逸民族ノ糾合

ニ止マラス歐洲征服ノ冒險ニ乗出セルモノニシテ今後東歐ノ諸國ハ逐次侵略(「メーメル」問題ヲ繞ル「リスアニア」ノ情勢、廻廊問題ヲ中心トスル獨波關係、羅馬尼亞ヲ通スル「ウクライナ」ノ進出等取沙汰セラル)セラルル運命ニアリ危機續發ノ形勢ナルニ鑑ミ英國ハ舉國一致再軍備ニ邁進スヘシトノ趣旨ヲ強調シ居ル處議會ニ於ケル空氣モ右ヲ反映シ在野黨ノ政府特ニ首相攻撃熾烈ヲ極メ居レリ十六日夜保守黨外交委員會席上ニ於テ百餘名ノ出席者一致シテ徵兵制度施行ヲ要望シ「ハリファクツス」外相モ熱心ニ之ヲ支持シ居ルヤノ報道アリ他方「イーデン」ハ議會ニ於テ時局ニ鑑ミ舉國內閣組織ノ急務ナルヲ力説シ之亦「ハ」外相ニ於テ贊成ノ由(首相ハ容易ニ「イーデン」ノ入閣ヲ應諾セスト言ハレ其ノ可能性少キ模様ナリ)傳ヘラレ成行注意ニ値スルモノアリ右ノ如ク輿論ハ著シク首相ノ平和政策ニ對シ懷疑的トナリツツアリ純保守黨ノ諸新聞迄モ批判的論說ヲ掲ケ各方面共邊ニ歐洲政局ノ前途ニ對シ濃厚ナル不安ヲ示シ居ルカ十七日夜「バーミンガム」ニ於テ行ハルヘキ首相演說(同盟ヨリ打電スヘシ)ハ時局柄特ニ重要視セラレ居リ

701 昭和十四年三月十八日 有田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

在チエコスロバキア日本公使館を廃止し総領

事館をブラハに設置する意向を独国政府へ内

報方訓令

付記 昭和十四年三月十八日決裁

高裁案「在「ブラーグ」帝國公使館ヲ總領事  
館ニ變更スルノ件」

本省 3月18日後3時30分發

第一五二號(至急)

貴電第二三七號ニ關シ

帝國政府ハ獨逸合併ノ際ノ如ク他國ニ卒先シテ在「ブラー  
グ」公使館ヲ廢止シ總領事館ヲ設置シ度キ意向ナルカ公使  
館ノ存廢ニ關シテハ樞密院ノ御諮詢ヲ經ルヲ要スルヲ以テ  
目下折角其ノ準備中ナリ就テハ右御含ミノ上獨逸政府ニ對  
シ我方意向内報セラレ度  
致ヘ轉電アリ度シ

(付記)

昭和十四年三月十八日起案  
昭和十四年三月十八日決裁

高裁案

在「ブラーグ」帝國公使館ヲ總領事館ニ變更スルノ件

本月十六日附ヲ以テ「ボヘミア」「モラヴィア」ハ獨逸保護  
領タルコト宣言セラレ致惠古共和國ハ獨立國タルノ地位ヲ  
喪失スルニ至リタル爲在「ブラーグ」帝國公使館ハ其存在  
理由消滅シタル次第ナル處帝國ハ獨逸ノ友邦トシテ可及的  
速カニ右事態ヲ確認スルコトト致度帝國公使館ハ之ヲ廢止  
シ總領事館トスルコトニ御決裁ヲ得度  
右仰高裁

(附記)致惠古問題經過概要

昨年九月二十九日ノ「ミュンヘン」四國協定ニ基ク「スデ  
ーテン」地方ノ割讓ヲ以テ一應致惠古問題ハ解決シ致惠古  
國ハ「スロヴァキア」及「ルテニア」ニ自治ヲ許與シタル  
結果以上二州ト「ボヘミア」「モラヴィア」ヲ合シタル致國  
人地方トノ三州鼎立ノ聯邦の國家形式ヲトルコトトナリタ  
リ

然ルニ其後「スロヴァキア」ニ於ケル自治權擴張要求ハ益々増大シ「プラーグ」中央政府ハ之カ彈壓ニ腐心シ居リタル處本年三月九日遂ニ「スロヴァキア」獨立派タル「テイソ」内閣ヲ罷免スルノ舉ニ出スルニ及ヒ俄然「スロヴァキア」ニ不穩ノ氣勢高マルニ至レリ

「テイソ」ハ十三日飛行機ニテ伯林ニ赴キ「ヒットラー」總統ト會談シタルカ同日「モラヴィア」地方ニハ獨逸人殺傷事件勃發スルアリ、獨逸側ニ於テハ「スロヴァキア」ノ自治ニ對スル致惠古中央政府ノ干渉ハ「ミュンヘン」協定、維納裁定ノ精神ニ違反スルモノニシテ又致惠古内獨逸人ニ對スル暴虐ハ之ヲ許スヘカラストノ態度ヲ示セリ而シテ十四日開催セラレタル「スロヴァキア」議會ハ「スロヴァキア」ノ獨立ヲ宣言シ「テイソ」ヲ大統領ニ選舉シテ氣勢ヲ擧ケタルカ事態ノ急迫ニ驚キ「ハーハ」大統領ハ同日急遽伯林ニ赴キ「ヒットラー」總統ト會見セリ右兩者ノ會談ノ結果致惠古民族及致惠古國ノ運命ハ擧ケテ之ヲ獨逸國總統ノ手中ニ委ヌルコトニ合意成立シ其旨發表セラレタリ

右ニ依リ獨逸軍ハ直チニ國境ヲ越ヘ「ボヘミア」「モラヴィ

ア」ノ要地ヲ占領スルト共ニ「ヒットラー」總統モ「プラーグ」ニ入り翌十六日「ボヘミア」「モラヴィア」ハ獨逸保護領タルコト發表セラレ茲ニ致惠古共和國ハ獨立國タルノ地位ヲ完全ニ喪失スルニ至レリ

702

昭和14年3月18日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

チェコ併合が英國に与えた衝撃について

ロンドン 3月18日後発

本省 3月19日前着

第二六六號

致國事件ノ當初ハ英國内部ハ寧ロ致國解決ニ依リ國境保障等ノ事務ヲ免レタル爲厄介拂ヲ爲シタルヲ喜ヒタル風アリタルカ事件ノ發展ニ依リ致國「スロバアキヤ」ノ事實上ノ獨逸合併ヲ見千萬ノ人口(勞力)ヲ獨逸ニ加ヘタルノミナラス約四千萬磅ノ運用(千八百萬現金千萬弱外國公債及在外投資額千數百萬)ヲ獲得シ枯渴セル獨逸ノ對外財源ヲ少クトモ半年以上運用セシメ得ルニ至リ更ニ強力ナル工業力ヲ資源ト共ニ加ヘ茲ニ歐洲中央ニ於ケル獨逸ノ優越的地位ノ

樹立ヲ見ルニ至ラントスル事實ヲ直視スルニ當リ英國ノ驚愕ハ相當深刻ニシテ獨逸ノ勢力ニ對抗スル外交軍備ノ準備必要ヲ痛感スル模様ナルト共ニ獨逸ノ遣方ノ餘リニ徹底的ナルノミナラス小國ノ反感恐怖ヲ利用刺戟シ「デモクラシー」ノ擁護「ヒトラー」民族主義ノ破滅其ノ約束蹂躪等ノ理由ヲ擧ケテ世界ノ「センチメンタリズム」ニ訴へ獨逸反撃ノ宣傳開始セラレタリ

尙又今回ノ獨逸ノ行動ハ獨逸カ東方進出ニ際シ東西ヲ通スル鐵道交通ノ關係上致國ノ完全ナル制壓カ民族主義ノ主張ヲ犠牲ニシ又異分子包擁ノ困難ヲ見ルニ拘ラス絶對的必要トナリタルニ依ルモノニシテ從テ大ナル計畫ノ一部ナリト爲サレ居レリ獨逸ノ斯ル計畫ハ素ヨリ「ヒトラー」ノ遠大ナル計畫ニ基クモノナルハ明カナルモ最近英國ノ對外政策ノ進展(往電第二〇七號ノ四)カ著シク刺戟ヲ與ヘタルハ想像ニ難カラス

在歐各大使、米、壽府へ轉電セリ

703

昭和14年3月18日

在仏国宮崎臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### チエコ併合後の仏国の対独警戒について

パリ 3月18日後発

本省 3月19日前着

#### 第一五六號

今次ノ「チエツコスロバキア」抹殺ハ獨カ一切ヲ顧ミス力ニ依リ征服主義ヲ振翳スニ至リタルモノノ先驅ナリトテ極度ニ英佛ノ警戒心ヲ唆リ居ル處佛政府ハ突如十七日ノ閣議ニ於テ佛國力ノ強化及増進ノ爲必要ナル全權ヲ政府ニ賦與スル法律案ヲ決定ノ上即日下院ニ提出セリ提案理由ノ説明ニ當レル首相ハ歐洲現下ノ狀勢ヲ説キ故國ノ危急ヲ救フ必要ノ前ニハ一切ノ權利主張ハ姿ヲ隱スヘキモノナリト喝破シ或國ニ於テハ重大ナル決定カ祕密裡ニ執ラレ即時實行ニ移サレ得ル時佛カ之ニ對應シ得サルハ國際平和ヲ救ヒ國家ノ威信ヲ保ツ所以ニアラストテ政府ハ本案ニ依リ緊迫スル事態ニ面シ急速ニ適當ト思惟スル措置ヲ採リ得ルコトヲ欲スルモノナリト直言セリ本案ハ下院財政委員會ニ於テ二六票對一七票ヲ以テ可決セラレ十八日ノ本會議ニ送ラレタルカ社會黨及共產黨ノ一致セル反對ニ拘ラス之ヲ通過シ十九日二八日曜ヲ厭ハス上院ニ於テ審議セラレ廿一日ノ大統領

訪英前ニ實施ヲ見ルヘシト一般ニ豫想セラレ居レリ  
下院財政委員會ニ於ケル首相ノ説明ニ依レハ政府ハ本案ニ  
依リ不取敢四〇時間勞働制ノ修正、軍需品ノ「ストツク」  
設定及外國ニ於ケル購入民間工業ニ對スル國防注文ノ強制  
引受等ヲ考慮シ居リ新聞「ラヂオ」ノ統制、議會ノ停止又  
ハ下院ノ改選延期、共產黨ノ禁止ニ迄進展スヘキヤ否ヤハ  
四圍ノ狀況如何ニ懸リ未タ豫想シ居ラスト述ヘタル趣ナル  
カ全權案ニハ本年十一月末日ノ期間ヲ附シ居ル模様ナリ  
在歐各大使へ轉電セリ

704 昭和14年3月20日 有田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

チエコ併合後における欧州政情推移の見通し  
につき査報方訓令

第一五四號

本省 3月20日發

今回ノ致國事件ハ中歐ニ於ケル獨逸ノ優越的地位確立ニ更  
ニ一步ヲ進メタルモノニシテ今後ニ於ケル歐洲情勢ノ變化  
ハ逆睹スヘカラサルモノアリト存セラルル處右カ東亞ニ及

ホスヘキ影響ノ甚大ナルヘキニ鑑ミ我方トシテハ之ニ對シ  
深甚ノ關心ヲ有シ居ル次第ナリ就テハ獨逸東進政策ノ今後  
ニ於ケル進路、之ニ對スル歐洲諸國殊ニ其ノ目標トナルヘ  
キ蘇、波、羅、洪「バルカン」諸國ノ態度及ヒ獨伊樞軸ニ  
及ホスヘキ影響竝ニ英佛ハ今後如何ナル對抗策ニ出ツヘキ  
ヤ等今後ノ歐洲情勢推移ノ見透ニ關スル責任國政府ノ意向  
及有力筋ノ觀察ヲ貴使ノ觀測ト共ニ出來ルタケ詳細ニ電報  
アリタシ

705 昭和14年3月20日 在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独国のボヘミア・モラビア保護領化に対する  
英仏兩國の抗議と独国回答について

ベルリン 3月20日後發  
本省 3月21日前着

第二四九號  
「ボヘミア」、「モラヴィア」保護領設定ニ關シ在伯林英佛大  
使ヨリ獨逸政府ニ對シ抗議ヲ爲シタルカ之ニ對シ當國政府

ハスル抗議ハ政治的、法律的及道義的ニ何等根據ナキモノトシテ之ヲ受クルコト能ハサル旨回答シタル趣十八日DNBノ發表アリタリ

706 昭和14年3月22日 在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### チエコ問題への米國対応振りに関し独國代理大使内話について

ワシントン 3月22日前發  
本省 3月23日前着

#### 第二三八號(極秘)

(1) 二十一日須磨ヲシテ「トムセン」獨代理大使ヲ往訪現下ノ米獨關係ニ付質サシメタル處「ト」ハ

一、米國政府ノ十九日附對獨「ノート」ヲ示シ案外調子弱ク其ノ内容ハ極メテ簡單ニ今回「ボヘミア」「モラビア」等ニ「ドフアクト」ノ政權生シタル處獨逸力是等ノ地域ニ對シ執リタル行動ハ承認シ得サル趣旨ヲ述ヘテ「ウエルス」ノ發表セル「ステートメント」(往電第二二二號)寫ヲ送付越セルモノナリ自分ハ實ハ「ウエルス」次官ヨ

リ呼出サルルコトヲ豫期シ抗議ヲ手交セラルヘハ受理ヲ拒絕スル積リナリシカ先方ニテ之ヲ見越シタルモノカ「メツセンヂヤー」ヲ使ヒ「ノート」ヲ送達シ越セリ尙「ハル」長官カ「フロリダ」ノ休暇先ヨリ歸ラサルコトハ米國カ今回ノ行動ニ對シ何等強キ態度ヲ執リ得サルヲ知リテノコトナリトノ聞込モアル次第ナリ

二、米國ノ獨逸ニ對スル今後ノ出方トシテ二十五%ノ相殺關稅ヨリ更ニ一步ヲ進メテ「エンバーゴ」ヲ行フ危險ハアルモ既ニ相殺關稅ニ付(テ)スラ一部業者ニ相當強キ反對アル趣ナレハ「エンバーゴ」ニ及フコトハアルマシク曾テ一九三五年ノ獨逸ノ「ブロックマルク」ニ對シ報復トシテ百%ノ關稅ヲ課シタル例モアレハ二十五%ノ相殺關稅ハ漸次高率トサレルコトハアリ得ヘシ獨逸ハ是等ノ措置ニ對シテハ報復手段ニ出テサル積リナリ

(2) 三、最モ大ナル影響ヲ蒙ムルハ一九三六年以來米獨兩國財政當局ノ承認ノ下ニ當業者間ニ行ハレ居ル米國ノ棉及銅ト獨逸ノ機械類トノ「バーター」協定ニシテ右ハ相殺關稅實施ト同時ニ恐ラク事實上實行不可能トナルヘク其ノ上ハ棉ハ伯刺西爾、銅ハ智利及祕露產ヲ以テ代用スル積リ

ナルモ是非トモ米棉ヲ要スル工業アリ之ハ打撃最モ大ナルヘシ何レニスルモ過去三年間極メテ圓滑ニ行ハレ來ル「バーター」制ニ鑑ミ營業者ハ相當ノ打撃ナリ

四、舊致國在華府公使在紐育總領事等カ從前通り職務ヲ執行スル趣ナルカ此ノ種ノ事ハ曾テ露國又近クハ西班牙ニ付其ノ例アリ結局米國ノ「チャリテイ」ニ依リ存續スルモノナルモ茲ニ問題トナルハ近ク各國ニ獨自ニ開設セラレントスル「スロバツク」ノ公使館ニシテ米國トシテモ之ハ認ムルノ外ナカルヘク其ノ際ハ此ノ問題ハ自然消滅スヘシ

五、致國ニ有スル米國ノ戦債一億七千萬弗直接投資五百萬弗合セテ一億七千五百萬弗ノ處理ニ付テ米國カ問題ヲ起スコトアリ得ヘキモ獨逸ノ致國併合ヲ承認セサル限り問題トナラス

六<sup>(3)</sup>、米國輿論ノ「エモーシヨナル」ナルハ獨逸トシテ最モ注意ヲ要スル處之亦猶太人對策ヲ多少緩和スル等ノ處置ニ依リテ著シキ惡化ヲ防キ得ヘク本國政府ヨリノ情報ニ依ルモ英佛ニハ結局戰意ナク殊ニ英カ最近頻リニ米國ニ呼掛ケ居ルトノ確實ナル情報ヲ有スルモ獨逸トシテ英佛ヲ

攻撃スルカ如キコトハ爲サス英佛側ヨリ獨逸ヲ襲フニ於テハ米國ヲ引入ルコト困難ナルヘシト觀測ス獨トシテハ今ノ所米國ニ對シ特別ノ嫌カラセヲ爲ス積リ毛頭ナシ

七、米國ニ於テハ獨露共ニ獨裁國家ナレハ寧ロ兩國接近ノ可能性アリ等言ヒ觸ラス者アルモ右ハ「ウクライナ」ノ石油ヲ中心トスル獨露通商交渉アリタルニ基ク根モナキ疑惑ニシテ自分ハ米人ニ對シ「ヒトラー」ノアル限り「イデオロギー」ノ相異ヨリシテモ獨露間ニ妥協ナシト述ヘ居レリ今回ノ行動ニ關シ蘇聯カ行動ヲ執リ得ルヤ否ヤニ付テハ全然否定的ノ確報アリ

又英米佛等カ共同動作ニ付話合ヘリトノ情報アルモ此ノ種ノ行動ハ武府會議ヲ以テ終幕トナリタリト見居レリ本日接受セル情報ニ依ルモ共同動作ノ實現ハ先ツナシト見居ル模様ナリト述ヘ居タル趣ナリ

英ハ轉電シ紐育ヘ暗送セリ  
英ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリタシ



707

昭和14年3月24日

在独国外務大臣宛(電報)

## 独国・スロバキア間で締結された保護条約の

### 内容について

ベルリン 3月24日後発

本省 3月25日前着

#### 第二六六號

<sup>(1)</sup> 二十三日伯林ニ於テ獨逸國「スロバキア」間ニ左ノ保護條約締結セラレタル旨發表セラレタリ

第一條 獨逸國ハ「スロバキア」ノ政治的獨立及領土保全ノ保護ヲ引受ク

第二條 右保護遂行ノ爲獨逸國防軍ハ西方面「スロバキア」國境ト小「カルパーテン」白「カルパーテン」及「ヤボルニク」山脈ノ東邊ヲ貫スル一般線トノ間ノ地帯ニ隨時軍事施設ヲ建設シ其ノ必要ト認ムル兵力ヲ駐屯セシムル權利ヲ有ス「スロバキア」政府ハ右施設ニ必要ナル土地ヲ獨逸國防軍ノ使用ニ供スヘク措置スヘシ尙「スロバキア」政府ハ獨逸軍ノ休養及軍事施設資料ノ獨逸國ヨリノ無稅輸入ニ必要ナル措置ヲ與ヘルコトニ同意スヘシ

前項ノ地帯ニ於ケル軍事的統治權ハ獨逸國防軍之ヲ行使ス<sup>(2)</sup>前記ノ地帯ニ於テ私契約關係ニ基キ軍事施設ノ建設ニ從事

スル獨逸人ハ右事業ニ關スル限り獨逸國裁判權ニ服ス  
第三條 「スロバキア」政府ハ獨逸國防軍トノ密接ナル聯絡ノ下ニ自國國防軍ヲ組織スヘシ

第四條 「スロバキア」政府ハ本協定ニ依ル保護關係ニ應シ常ニ獨逸國政府ト密接ナル聯絡ノ下ニ其ノ外交政策ヲ遂行スヘシ

第五條 本條約ハ署名ト共ニ效力ヲ發生シ二十五年間效力ヲ有ス兩國政府ハ本條約期限滿了前過時爾後ノ延長ニ關シ合意ヲ遂クヘシ

在歐各大使へ郵送セリ



708

昭和14年3月25日

在ポーランド酒匂大使より  
有田外務大臣宛(電報)

チェコ併合に關してポーランドとは協議せず  
との独国外使内話について

ワルシャワ 3月25日後発

本省 3月26日後着

第六八號(極秘)

往電第六三號ニ關シ

獨逸大使ノ本使ニ對スル内話中參考トスヘキ點左ノ通り  
 致國併合乃至洪波共同國境問題ニ付獨逸波間ニ事前ニ何等カ  
 ノ話合アリタルヤニ觀測スル向アルモ然ラス即チ十三日夕  
 刻急ノ需ニ應シ「ベツク」外相ヲ往訪セルニ洪牙利軍ノ動  
 キ及「スロバキア」ノ情勢等ニ付質問ヲ受ケタルカ自分ハ  
 實際知ラサリシニ依リ其ノ旨答ヘタルニ外相ハ至急電照方  
 要望セルニ依リ之ヲ諾シ歸宅後伯林行ヲ決シ電話ニテ「ベ  
 ツク」外相ノ承認ヲ取付ケ即夜出發十四日刻々移行行ク情  
 勢ヲ「ヒ」總統及「リ」外相ヨリ聽取其ノ夜歸任セルカ  
 「ワルソー」着ハ十五日午前九時ナルモ同日午前六時ニハ  
 致國へ進軍ノ筈ナリシニ鑑ミ「ワルソー」着後直ニ「ベツ  
 ク」ニ會見シ度キ旨申入方取計畫キタリ然ルニ同日夕刻ニ  
 及フモ「ベ」ヨリ回答ナク夜八時ニ至リ先方ヨリ會見ノ申  
 入アリ不快ニ思ヒツツ往訪セル處「ベ」ハ非常ニ興奮シテ  
 「オルザー」方面ニ進軍シ來レル獨逸軍カ波蘭守備兵ニ對  
 シ銃ヲ向ケタリトカ約三十分間種々ノ不平ヲ訴ヘタリ右終  
 ツテ後自分カ態々伯林ニ赴ケルハ電照等ヨリモ效果的ト考  
 ヘタル爲ナリトテ伯林出發迄ノ情報ヲ告ケ次テ「ヒ」總統  
 ヨリノ傳言(波蘭トノ善隣友好關係維持ノ熱意ニ何等變化

ナキ旨)ヲ傳ヘタルニ「ベ」ハ上機嫌トナリ自分ニ謝意ヲ  
 表シタリ尙獨逸ハ十三日洪牙利ニ對シ「カルパト」進軍ヲ  
 命シタルカ洪牙利軍ハ當初「ウクライナ」人ヨリ相當強キ  
 抵抗ヲ受ケ獨逸軍モ亦當初致國軍ノ抵抗ヲ受ケタル模様ナ  
 リ云々  
 在歐各大使、壽府へ暗送セリ



709 昭和14年3月28日

在独国大島大使より  
 有田外務大臣宛(電報)

### スロバキアの外交権独立に関する独国外務次

#### 官補の説明について

ベルリン 3月28日前発  
 本省 3月28日後着

#### 第二八〇號

往電第二六六號ニ關シ

二十七日「ヴェヤマン」次官補ハ往訪ノ宇佐美ニ對シ「ス  
 ロヴァキヤ」ノ地位ハ今回ノ條約ニテ確定シタル次第二ニテ  
 「スロヴァキヤ」ハ獨逸ト歩調ヲ一ニシテ外交ヲ行フモ外  
 交權ノ獨立ハ之ヲ保持シ外國數箇所ニ公使館ヲ設定スヘク

(差當リ伯林、「ワルソー」、「ブタバエスト」、巴里、華盛頓等ヲ豫定ス)獨逸モ在「プレスブルグ」總領事館ヲ公使館トシ當分代理公使ヲ置クコトトナルヘシ尙「スロヴァキヤ」ハ各國ニ對シ獨立ノ通告ヲ發出スル筈ナルニ付右通告ニ對シ各國方同國承認ノ措置ニ出テラルルコトハ獨逸トシテ異議ナキ所ナリト述ヘタルカ更ニ宇佐美ヨリ獨逸トシテハ日本カ速ニ同國ヲ承認スルコトヲ希望セラルル次第ナリヤト質シタル處「ヴェ」ハ右ニ付テハ即答シ兼ヌル旨答ヘタル趣ナリ何レ本使ヨリ直接「リ」外相ニ就キ獨國政府ノ眞意ヲ確メタル後更ニ報告ス

710

昭和14年4月15日

在チエコスロバキア藤井公使より  
有田外務大臣宛(電報)

保護領の現状およびチエコ併合に至る三月十日  
五日の真相につき前チエコスロバキア外相の

内話報告

ブラハ 4月15日後發

本省 4月16日前着

第四一號

出發前<sup>(1)</sup>ノ挨拶ヲ兼ネ十四日前外相「フーアルコフスキ」ヲ往訪シ當保護領ノ現状竝ニ客月十五日事件ノ真相ヲ尋ネタル處同人談話ノ概要左ノ通り

大統領ハ從前通り個人的ニ主權者タル尊嚴ヲ許與セラレ當保護領政權ノ首班タル地位ニ在ルモ事實ハ「プロテクター」ニ協力シテ領内ノ統治ニ當ル次第ニシテ其ノ地位ハ全く統領ノ名代タル「プロテクター」ニ依存ス内閣ハ國防、外務ヲ除キ大體從來通りノ形ニテ政務管掌ニ當リ當保護領ハ廣汎ナル自治ヲ許容セラレ居ル次第ナリ三月廿一日「ハツハ」大統領ハ五十人ノ委員ヨリ成ル國民委員會ヲ選任セルカ右ハ議會ニ代ル國政ノ諮問又ハ審議機關タル筈ナリ最初「プロテクター」トシテ「ノイラート」ヲ選任セルハ總統カ當地民衆ノ心理ヲ了解セルモノトシテ上下ニ頗ル好感ヲ以テ迎ヘラレタル次第ナルカ十五日「ノイラート」再度ノ來着ヲ待チ愈新内閣ノ構成ニ取掛ルヘク來週其ノ成立ヲ見ルヘシ

<sup>(2)</sup>「ベラン」内閣ニ「ハツハ」大統領ノ推薦ニ依リ入閣セル「ハウエルガ」カ大統領トノ特殊關係ニ鑑ミ新總理タルヘシトノ説アリ)斯テ新政權ノ内容、自治行政ノ範圍等漸次

判明具體化スルニ伴ヒ一般民衆ノ不安モ去ルヘク日ヲ經ルニ從ヒ新事態ニ適應スルニ至ルヘシト信ス三月十五日事件ノ真相ニ付テハ初メ「スロヴァキア」問題ノ紛糾ヲ見ルヤ自分ハ伯林行ヲ決心シ十一日(土曜)「リツペントロツプ」ニ面會ヲ求メタルモ同人ハ「キール」ニ在リシ爲果サス更ニ十三日再ヒ之ヲ求メタル處其ノ日ハ既ニ「チソ」等「スロヴァキア」關係者ノ伯林乘込ノ爲目的ヲ果シ得サル内十四日遂ニ「スロヴァキア」カ獨立ヲ宣言シ事態急ヲ告クルニ至リタル爲大統領ハ自ら總統ニ面謁「チエツコ」「スロヴァキア」間ノ調停ヲ依頼センコトヲ決意シ在當地獨逸代理公使ヲ通シテ面會ヲ求メシメ承諾ヲ得タルニ依リ自分(外相)ヲ伴ヒ同日午後四時特別列車ヲ仕立テ伯林ニ赴キ總統ニ面會セルハ翌十五日午前一時ナリ

最初ニ總統ハ「スロヴァキア」ニ於ケル事態紛糾ト「メーリツシユオストラウア」ニ於ケル獨逸人迫害ニ顧ミ「ボヘミア」及「モラヴィア」全體ニ涉リ軍事占領スルコトニ決心セリ若シ「チエツコ」軍力武装解除ニ應スレハ「チエツコ」ニ對シ出來ル丈ケ寛大ナル方策ヲ取ルヘキモ抵抗スルニ於テハ實力ヲ以テ之ヲ處置スヘシト述ヘタルニ付大統領

ハ右ハ自分一存ニテ回答シ難キニ付暫ク猶豫ヲ請フ旨答へ別室ニテ「ブラハ」ニ電話シ「ペラン」總理ニ其ノ旨ヲ傳へ至急閣議ヲ開クコトヲ要請セル處三時頃ニ至リ到底武力抵抗ノ意思モナク實力モナキニ付萬事大統領ニ一任スル旨回答セルニ付更ニ總統ニ面會シ「チエツコ」ノ運命ヲ總統ノ手中ニ委スル旨述ヘタル結果當時公表セラレタル協定ノ調印トナリタルモノニシテ

右公表ノ分以外ニ武装解除ヲ承諾スル旨ノ協定ニモ調印セルモノナリ當時一戦スヘカリシモノト非難スルモノアルヲ聞ケト「ミュンヘン」會議以前ナラハイサ知ラス當時ニ於テハ天險モ失ヒ要塞モナク多數ノ武器ヲ外國ニ賣リ(獨逸ニサヘモ賣レリ)テ武装、自信及士氣舊ノ如クナラス戦フモ唯徒ニ青年ノ血ヲ流シ其ノ後ノ民衆ノ勞苦ヲ増スノミ結局最善ノ方策ヲ選ヘルモノト言フヘシト述ヘ暗然タルモノアリタリ

尙「フウプコフスキー」ハ當保護領ノ代表トシテ「ミニスター」ノ資格ニテ伯林ニ駐在スルコトナル由

在歐各大使、洪、羅へ暗送セリ

711 昭和14年4月26日  
有田外務大臣より  
在テエコスロバキア木内(良胤)臨時代  
理公使宛(電報)

公使館閉館およびブラハ総領事館閉館につ  
き訓令

本省 4月26日前11時50分發

第二一號

貴館ハ四月三十日限り閉館、「ブラーグ」ニ總領事館ヲ五  
月一日開館セラレ度シ

尙右ニ伴フ職員ノ發令ハ追テ電報スヘシ

獨ニ轉電アリタシ



712 昭和14年4月29日  
在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

わが方の公使館閉館および総領事館開設を独  
国政府へ通報について

ベルリン 4月29日後發  
本省 4月30日前着

第三八九號(大至急)

貴電第二四五號ニ關シ(「ブラーグ」ニ總領事館設置ノ件)

在「ブラーグ」帝國公使館ノ閉鎖及同地帝國總領事館設置  
ノ件ニ關スル政府ノ御決定ヲ當國外務省ニ申入レ置キタル  
處本日同省ヨリ「ベルバールノート」ヲ以テ右ヲ了承シタ  
ル旨申越セリ  
致へ轉電セリ



713 昭和14年5月10日  
在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

わが方のスロバキア承認を独国政府要請につ  
いて

ベルリン 5月10日後發  
本省 5月11日前着

第四三一號

往電第三九〇號ニ關シ

外務次官補「ヴェーアマン」ヨリ獨逸ハ政府トシテ日本政  
府ノ「スロヴァキア」承認ヲ希望スル旨申越シタリ就テハ  
我方トシテ成ルヘク速ニ右様御取計相成リ然ルヘシト存ス  
尙右御決定アリタル場合同國ニ公使ヲ派遣セラルコトト  
シ但シ獨「ス」外交關係ノミ在獨帝國大使ヲシテ兼任セシ

メラルルコト適當ナルヘシト存ス  
本電然ルヘク在滿大使へ御通報ヲ請フ

714 昭和14年6月1日 有田外務大臣より  
デュルカンスキー スロバキア外務大臣宛

スロバキア承認につき通報

付記 昭和十四年六月一日

スロバキア承認に関する情報部長談話

歐二普通第一六號

以書翰啓上致候陳者本年三月十四日附貴翰ヲ以テ「スロヴァキア」國民議會カ三月十四日「ブラチスラーバ」ニ於ケル公式集會ニ於テ現國境内ニ於ケル「スロヴァキア」國ノ獨立ヲ宣言セル旨通報セラルルト同時ニ帝國政府ニ對シ同國ノ獨立承認方御要請相成敬承致候就テハ本大臣ハ茲ニ帝國政府ガ本日ヲ以テ「スロヴァキア」國ノ獨立ヲ承認スル旨回答スルノ光榮ヲ有シ候  
右回答旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具  
昭和十四年六月一日

外務大臣 有田 八郎

「スロヴァキア」國外務大臣  
「デュルカンスキー」閣下

（付記）

帝國ノ「スロヴァキア」國承認ニ關スル情報部長談話

（六月一日）

本日帝國政府ハ「スロヴァキア」國政府ニ對シ同國「デュルカンスキー」外務大臣宛有田外務大臣ノ書翰ヲ以テ同國ノ獨立ヲ承認シ同國政府ヲ正當政府トシテ承認スル旨ヲ通告シタ。

「スロヴァキア」國ハ本年三月十四日舊チエコ・スロヴァキア國解體ニ際シテ獨立ヲ宣言シ同月二十三日獨逸國ト保護條約ヲ結ヒ其ノ政治的獨立及領土保全ノ爲獨逸國ノ保護ヲ受ケ軍事外交ニ關シ獨逸國ト密接ナル連絡ヲ保ツコトトナツテ居ル從テ我國カ盟邦獨逸國ト特殊關係ニアル同國ト正式外交關係ヲ開クコトハ寔ニ當然ト言フヘク吾人ハ今後同國カ獨逸國トノ連絡ヲ益々密ニシ歐洲平和確立ノ爲寄與スルコトヲ信スルモノテアル。

編  
注

本文書は、昭和十四年十二月、外務省作成「外務省公  
表集」第十八輯より抜粋。

